

第3回

交流しながらプログラムのアイデアを考えよう

(1) プログラム

日 時 | 7月8日(土) 13:00 ~ 16:00

会 場 | 深川高校 1 階 大会議室

内 容 | 交流しながらプログラムのアイデアを考えよう

- ・ 昨年、一昨年に検討してきたプログラムを紹介し、それをベースにして、深川高校 1 年生の授業で伝えたい新しいプログラムのアイデアを出しあいました。

タイムテーブル |

13:00 (50 分) **【これまでのプログラム紹介】**

- ・ 昨年、一昨年などに検討してきた、寸劇や体験などの紹介。

13:50 (70 分) **【高校生に UD まちづくりを伝えるプログラムを考えよう！】**

- ・ 紹介された寸劇や体験について、ひとこと感想を出しあう。
- ・ 「やり方の違い」について、アイデアを出しあう。
- ※ 紹介した寸劇を発展させても、全く新しい話から考えてもいい。
- ※ 複数出たら、どの話から膨らませるかを決める。
- ※ 可能なら、せりふを書き出し、役割をきめて寸劇をやってみる。
- ※ 可能なら、高校 1 年生に伝わるかの視点から意見交換をする。

15:00 (55 分) **【発表と意見交換】** (発表 5 分 × 5G) + 意見交換

15:55 (05 分) まとめ、次回のお知らせ

16:00 終了

(2) これまでのプログラム紹介

これまで考えてきた「寸劇」と「体験」

◆寸劇づくりの考え方

●3つのステップ

STEP1 ある人の「やり方の違い（困りごと、苦手なこと）」から考えます。

STEP2 話の展開では、実際にあった状況やセリフを活かして、「そんなことあるの?」「そうなんだ!」と、「ほ〜」「へえっ」と共感することで、楽しく理解が深まることをめざします。

STEP3 最後に「人や状況により、やり方が違う」ことを伝えます。

●寸劇例

- 1) 窓口で
- 2) 駅までの道のガイド
- 3) 同じ話をしているけれど
- 4) 電車の席で（ロールプレイ）
- 5) ボランティアいろいろ 瞬間／15分／2時間

◆体験づくりの考え方

●3つのステップ

STEP1 誰もが参加でき、楽しいかを考えます。

STEP2 人により「感じていることや、やり方が違う」ことを知り、「ほ〜」「へえっ」と共感することで、楽しく理解が深まることをめざします。

STEP3 体験したことは、UD とどのような関係性があるかを伝えます。

●体験例

- 1) だれもが楽しいまち歩き
- 2) シャベリ場（深堀り自己紹介）
- 3) 音声ガイドに挑戦!
- 4) 手話で絵本の読み聞かせ
- 5) みんなでボッチャ

(3) 高校生に UD まちづくりを伝えるプログラムを考えよう!

グループに分かれて、高校生に伝えたい内容を考えました。

1グループ

①感想

■寸劇は実体験でわかりやすくて良かった

- ・寸劇を見て自分の思い込みに気づいた。
- ・寸劇はとてもわかりやすく、たくさんの人に気づきを与えられると思った。
- ・実際の声を聞けてよかった。

■知ることの大切さを感じた

- ・ろうの人もお客として来る可能性があることを

知っているだけで違う。バイト先で、そんなことを考えたことがないことに気づいた。

- ・ろうの友達がいる。知っているだけでも違う。
- ・見えない障害があることへの気づき。

■この例が全てではない、いろんな人がいる

- ・見た寸劇だけではない、いろいろな人がいる。
- ・不適切な事例も嫌がらせをしている訳ではない。

■なぜ「思いやり」がダメなのかわからない

- ・「思いやり」とUD との関係は何か?
- ・「おもいやりゾーン」「おもいやりでエレベーターをゆずりましょう」が実際にあることを知っ

ているか？ → 知らなかった。

- ・「思いやり」がダメなのではなく、「思いやりで使えるようにする」考え方がダメ。思いやりの有無に関わらず誰もが使えるのがUD。

■コミュニケーション不足によるすれ違い

- ・コミュニケーション不足によるすれ違いがある。聞かないとわからない。
- ・建設的対話：AさんとBさんとでは違う。

②プログラムのアイデア

■悪い例と良い例、知る前と後を対比させる

- ・悪い例だけでなく、良い例も伝えたい。
- ・対応される側の心の言葉だけではなく、対応する側の心の言葉もあると良い。声をかける側の逡巡の表現もあると良い。
- ・「やり方の違い」を知る前後の対応の違いを見せる。
- ・車いすの寸劇は良い例もあると良い。

■寸劇の説明がないと、なぜUD まちづくりにつながるのかがわかりにくい

- ・伝えたい内容がよくわからない。解説が必要。
- ・解説がないとわかりづらいが、これが正解というのとも違う。

■「UD」「合理的配慮」の説明から伝えない

- ・専門用語は使わない方が良い。

■障害者にしほらない方がよい

- ・ベビーカー、高齢者、子ども等。

■寸劇につながるアイデア

- ・レストランでろうの友達といった時、勝手に「私がやらなきゃ」と思って注文してしまったことがあった。友達が一人で普通に注文できたのに。
- ・ベビーカーで電車の乗り換え時、一旦地上にでないといけないことがあった。
- ・差別するつもりはなくても、スマホを持っていない人に情報が伝わらない。
- ・LGBTの人の制服の自由について。
- ・席を譲る問題：疲れている人、座りたい人は？「ゆずらないのはけしからん」という態度。
- ・ヘルプマークがよくわからない。
- ・バイト先での出来事は高校生に伝わりやすい。

■音声ガイド体験について

- ・目で見ない、音声のみの不便さを感じた。
- ・音声ガイドは頭に映像が浮かばなかった。動画は「これ」が何かわからない。
- ・視覚情報に頼る比率が高いことに気づいた。
- ・音だけだと情報が少ないことがわかった。何を

説明しているのか、を説明する必要がある。

- ・音のみと音声ガイドでは、長い一文の音のみより短い音声ガイドの方が分かりやすかった。
- ・固有名詞等の言葉がわからない。
- ・音声ガイドはわかりにくくなることもある。音声ガイド用のナレーションが別途必要。
- ・スケール感を音声ガイドで伝えるのは難しい。

2グループ

①感想

■困っていることがわかった

- ・車いす使用者と視覚障害者の困りごとが多かった。
- ・音声ガイド体験をして、当たり前に使っている目、耳の情報の多さに驚いた。
- ・車いす、目や耳の不自由な方の寸劇を見て、自分がサポート側だったらどうするか考えた。

■困っていることをどうサポートするか

- ・それぞれの不自由によってサポートが違う。見極めることができるか？
- ・視覚障害者を見かけた時、声をかけてお手伝いできるか心配。
- ・まちで障害のある人に声をかけられたら、すぐに手を差し伸べられるだろうか？
→グループのメンバー皆ができることと回答。
- ・困っていると伝えれば、サポートはできそう。
- ・職場ではサポートできるが、プライベートではサポートしたことで怪我をしないか心配。
- ・以前「駅までまっすぐ行くには」と尋ねられた時、答えに戸惑った。
- ・車いすの方の横を通り過ぎてから、声をかけなかったことを反省したことがある。

■気遣いすぎる

- ・手伝いに決まりはない、どうしたらいいかを聞く。
- ・気を遣いすぎるのもよくない。できる事までしようとするのは、相手へのリスペクトが足りないと気づいた。

■寸劇で伝える効果

- ・具体的な言葉、行動があり、自分が同じ場所にいた時のことを想像しやすかった。
- ・助けられる側の気持ち（嬉しいや嫌）を知ることができて良かった。

②プログラムのアイデア

■体験を交える

- ・体験はその人の立場に立つことができる。
- ・寸劇を高校生に興味を持ってもらうのが難しそう。生徒に実際やってもらうなどの方が良い。
- ・多数派と少数派を逆パターンで体験ができるとうい。(以前の聴覚障害者の寸劇例を紹介)

■伝えたい内容

- ・身近な話題じゃないと自分事化できない。
- ・自分に対応できなくても「次の人にお願い」という要素も盛り込む。
- ・障害に関係なく困りごとの発信が大切。受け取る側はゆとりを持ち、発信に気づくことが必要。
- ・コミュニケーションのスピードが早くて困っていることを伝えづらかったり、思春期であまり伝えたくない等、事情があることもある。
- ・声かけの違いの寸劇や体験（してほしいことを伝えた場合の、相手の姿勢や言葉遣い等）
- ・頼まれたり頼む時に、断られても重く考えないことを伝える。
- ・3.11の時、視覚や聴覚障害、車いすの人の行動は？高校生や親は？、保育園、帰宅困難者などのエピソードから広げる。今年は関東大震災100年で江東区では約5万人が亡くなった。

■体験イメージ

テーマ | 「はい、次」

- ・自分がダメでも次の人が対応してくれる。自分が断られても次にお願いすれば良い。
- ・シチュエーション | バスや電車／高校生が身近に感じることができる場。
- ・内容 | お願いする側とされる側の両方の立場になる。断られても落ち込まない、対応してくれたら感謝。

3グループ

①感想

■障害者の気持ちを知った

- ・目の見えない人の寸劇は、サポート側は良いと思っても、サポートになってないこともあると知った。
- ・車いす使用者が財布をとってもらおうシーンがあったが、他人にとってもらうことに抵抗はないのか。
- ・目が見えない人に周囲の風景を伝える寸劇は、嬉しい人もいれば気を遣われるのが嫌な人もいると思う。
- ・サポートする人は自分の気持ちを優先するのではなく、相手の希望にあわせることが必要。
- ・受け手も支える側も、ほどよい距離感を事例を通じて伝えられたら良い。

■コミュニケーションが基本

- ・断られることもあるが、助けが必要か聞くことを当たり前にする必要がある。
- ・聞こえない人は周りからみて障害があるかがわかりにくい、教育で手話に触れられたらいい。

②プログラムのアイデア

■「問いかけ」をする

- ・高校生に「問いかけ」しながら進めるのが良い。そのほうが寸劇にも気持ちを入れてくれる。
- ・高校生が発言できる機会があると良い。

■行動を変えられるもの

- ・寸劇に、車いすの人の横を通り過ぎる人がいたが、その人の気持ちを変えられるような内容。
- ・高校生が「自分だったらこうしよう」と次の行動につながることを望ましい。

■小道具を準備

- ・小道具などわかりやすいものがあるとよい。

■伝えたい内容

高齢者の話、介護している家族の話

- ・父が難病で車いす生活、介助が必要。家族介護も大変。そういった内容も良い。
- ・介護者の家族を助けることは必要。祖父が認知症で、直接ケアができなくても介護する祖母の食事を手伝うなどの間接的サポートはできる。

聴覚障害者の気持ち

- ・店員のマスクに困っている。コミュニケーションがとりにくい。
- ・筆談やスマホアプリ「UD トーク」を広めたい。
- ・自転車にぶつけられた経験があるが、声を出せないのと言い返したいけど我慢した。
- ・見た目では分からない。「聞こえない」を表すマークは必要か。ヘルプマーク以外で周りの人にわかってもらうものはあるか？

- 聞こえが不自由なことを表す「耳マーク」があるが、使っている人は殆どいない。特に若い人はマークを使いたがらないのではないのか。
- ・マークではなく、声を出した時の反応をみて声がでないことを気付いてほしい。
- ・「目印となるサインが欲しい」という意見があるが、当事者からすると「レッテルを貼られたりカテゴリーにくくられたくない」という心理が働く。立場によって異なる。
- ・目を見て人と対話することが重要。寸劇として表現できないか。

- ・「どうしたらよくなるか」考える時間、「してほしい声を聞く」時間があり、その後ポイントが整理されると良い。

■体験イメージ

寸劇案①

- ・高校生が行く場所（レストラン、受付、店、駅等）で、高校生が色々な人に会い、異なる手段でコミュニケーションをとる。
- 1) 高校生が耳の聞こえない高校生に会い、UDトークでコミュニケーションをとる。
- 2) 高校生が耳の遠い高齢者に会い、UDトークを試すがコミュニケーションを取れず、筆談する。
- 3) (日本語しか話せない) 高校生が日本語の話せない外国人に会い、身振り手振りで話をする。
- 4) (手話を勉強した) 高校生が聞こえない人に会い、手話でコミュニケーションをとる。
- ・当事者の心の声だけでなく、サポート側の心の声も伝える。

寸劇案②

- ・ヘルプマークやマタニティマークなどのマークは、サポートする側からするとわかりやすいが、身につける側にとっては区別されたくないのに区別されることになる。
- ・心理的安全性（組織の中で自分の考えや気持ちを誰にでも安心して発言できる状態）の問題？
- ・「違っていいよね」と「その違いを識別させずに理解しあうのがいいのではないか」を考える。

4 グループ

①感想

■寸劇や体験の感想

- ・分かりやすい劇が良かった。
- ・寸劇で「良かれと思っていること」と「サポート受ける側」のギャップが良い。視覚障害者の寸劇を見て、当事者にとって嫌なことを知った。
- ・音声ガイドと同時の手話通訳はやりづらいが、このような手段があることを紹介できて良かった。
- ・車いすの人の荷物を後ろからとるシーンがあったが、そもそも前にあった方が安全ではないか。
- ・店先などで指差しによるコミュニケーションがもっと広がれば良い。
- ・寸劇はコミュニケーションをテーマにするべき。外国で、身振りでトイレに連れて行ってもらった。外国人とのコミュニケーションも同じ。

■公共交通での障害者へのサポートの方法

- ・お願いする側も言葉に出し、相手を不安にさせないためのサポートが必要。
- ・車いすで乗車した際、バスの運転手が他の乗客に「お待たせしました」というのは本人にとってはやりすぎと感じる。
- ・必要な声かけは良いが、周りの人に大声で「移動して」などと言うのは、尊厳が傷つく。
- ・視覚に障害があると、説明に指示代名詞（それ、あれ、これ）が多いと分からない。
- ・通勤路で毎日使うにも関わらず、駅員に毎朝聞かれるのはどうかと思ったことがある。

■車内で席を譲るコミュニケーション

- ・席を譲られた時、ありがたいけれど断りたい時の断り方が分からない。
- ・席を譲って断られると、次から声をかけにくい。
- ・車内は乗客がスマホを見ていて声をかけづらい。
- ・駅員がサポートすると周りも一緒にやりやすい。
- ・離れている人に席を譲りたい時、対象の人に声かけをして、他の人が座らないようにしている。
- ・目の見えない人だからといって、席を譲ってもらわなくても良い。
- ・ヘルプマーク等をつけている人には席を譲りやすい。

■その他

- ・聞くことが苦痛なので、耳からだけで情報を得ることは大変。

②プログラムのアイデア

■寸劇のテーマ

- ・当初案「誕生日会で食事」→最終案「誰でもどんな人でも楽しめる ユニバーサルカフェ」。
- ・文化祭での模擬店なら、高校生が理解しやすいシチュエーションではないか。
- ・コミュニケーションで起きる問題を表現する。
- ・様々な立場の人に対してどう対応するか考える。
- ・客として訪れた当事者の気持ちを尊重し盛り込む。

■カフェを訪れる客の想定と伝えたいこと

[視覚障害者]

- ・メニューの内容を説明する方法。
- ・イスの勧め方。
- ・皿の上の食べ物をクロックポジションで伝える。
- ・補助犬の説明。

[聴覚障害者]

- ・指差しでコミュニケーションを取ることは可能だが、店員から拒否されることがある。

[車いす使用者]

- ・車いすだったため、入れなかったことがある。
- ・どのくらいのバリアがダメなのかを伝える。
- ・段差があっても、みんなで持ち上げればクリアできる時もある。店員によるところもある。
- ・ハードとソフトのハードルがある。

[外国人]

- ・高校の関係者に外国人がいるので、聞いてみる。

[高齢者]

- ・車いすと同じように段差の話を盛り込む。
- ・江東区の昔のまち並みや建物の話をする。

[病気やアレルギーのある方]

- ・ダメな食材や良い食材を確認する。

[宗教]

- ・宗教によって食べられないものがある。

[子連れの方]

- ・子どものイスの高さを考える必要がある。
- ・子どもが泣いても気にしない環境づくり。

[ペットや動物連れの方]

- ・拒否されるかもしれないが、テラスなら良いか。

■体験イメージ

①模擬店を開く

- ②様々な人が客として訪れ、店員が余計なお世話をしている悪いストーリーを見せる

③当事者からの本音を伝える

- ・人により異なる場合もある。
- ・特に偽善を感じると嫌に感じてしまう。

5 グループ

①感想

■寸劇や体験の感想

- ・音声ガイドがあるとわかりやすくなるが、なくても差しさわりのない。重要な話は詳しく知りたいが、普段から音声ガイド無しが普通の状態。
- ・昔は、障害とか気にせず友達としてよく遊び、きっと失礼もあったろうがガンガン言っていた。でも、寸劇や体験を見て相手にいろいろ聞くことが大切だと思った。
- ・寸劇は意見交換できる良いツール。相手に話しながら行動するのが良い。
- ・何がBESTなのか分からない。自分にできることがあるかもしれないが、オロオロしてしまう。
- ・寸劇にあったが、知らないうちに人がついてくるのは怖い。今朝、自転車で移動中、知らない

人が私に向かってベルを鳴らしてきた。寸劇がリアルだった。

- ・大学からの帰り道、一時期ホームレスの人が多く声をかけられたことがあった。そのままついてくる人もいて、怖いと思うことがあった。
- ・ファミレスのドリンクバーでは、コップを持ってきてくれる店もあるが、取りに行くのが前提の店もある。ATMも操作盤の位置が高くて不便、入口にスロープがない等、まちで困っていることはある。
- ・コンビニにコミュニケーションボードがあると良いと思った。例えば、「箸いる？ いらない？」「袋はいる？ いらない？」とかあれば便利。
- ・コミュニケーションボードがあると、逆に会話の機会が減ってしまう心配はないか。便利なツールだが、それで会話がなくなるのが困る。
- ・声かけの選択肢で悩む。寸劇を見ていて色々なパターンを知ることができた。

②プログラムのアイデア

■ドリンクバーやファミレスなどでの出来事

- ・見えないので、自分で飲み物を選ぶことができない。スタバは台が高いから大変だが、店員が持ってきてくれる。セルフレジ、タッチパネルも見えない人の敵。バーミヤンには点字メニューがある店がある。サイゼリヤは全店舗で点字メニューがある。

■電車の中での出来事

- ・深川高校は電車通学が8割、あとは自転車通学。
- ・エレベーターに人がたくさんいる時、車いすだと入りづらい。スマホを見ながら歩いている人に当たってしまう。車いすにドン！と当たってもらうような様子を見せるとわかりやすい。
- ・エスカレーターは歩くように作られていないが、ガイドと横並びで立っていると「どいてください」と言われることがある。
- ・知らないことを知るための内容の寸劇はどうか。
- ・障害者同士だと互いにやり方が違うことが分かっているから楽。
- ・電車の中で、車いすにつかまってくる人がいる。白杖につかまる人もいる。
- ・歩きスマホの人が車いすや白杖にぶつかってしまうことがある。そうしたことを、配慮の必要な人側の視点で寸劇を作れないか。
- ・見た目では分からない人の優先席の対応。